



2007年7月22日

いま起きつつあること…



「この国は二度と戦争をしないんだー！」

中学生の頃、憲法について勉強した時に嬉しくなったことをよく覚えています。9条の「永久にこれを放棄する」という言葉が戦後生まれの15歳の私にも何だかとても気高く思えたものです。

しかし、いつの間にか、日本国憲法は「国際社会の常識にそぐわない」、「押し付けられた憲法だ」、「新しい憲法を！」といった声が政治家や経済界を中心に大きくなっているようです。

実際、私たちが憲法「改正」を実現させるための法案として反対していた「国民投票法案」が成立し、今や「改憲」、新憲法制定への道筋がはっきりと政治スケジュールとして描かれる時代になっていきます。



そのような中で私たちは一体どうすればよいのでしょうか？

「憲法なんて難しいことはよく分からない」、「憲法？ピンとこないんだよね」、「教会と関係あるの?」と思う方もかもしれません。でもちょっと待ってください。私たちの生活は憲法に保障されて成り立っているのです。教会に当たり前に毎週通っているのも、憲法19条・20条で「思想および良心の自由」「信教の自由」が保

障されているからです。憲法は私たちの生活と遠いものではなくて、最も近いものの、「土台である」と言ってもよいでしょう。

イエス様は家を建てる時の土台を問われましたね。岩の上か、砂の上かと。今、私たちの周りに起きていることは、私たちが土台をどうするのかということが問われているということです。



そういうわけで、日本中

会神学・社会委員会では、

かわら版「いま起きつつあること」を創刊することにしました。憲法を変える？変えない？という議論の前に、「これだけは知っておきたい」情報をお伝えして、皆さんとともに、「この国でいま起きつつあること」の本当の意味を考えていきたいと願っています。

唐澤健太（日本中会神学・社会委員会委員長）

★おすすめ本

憲法が変わっても戦争にならない
 と思っている人
 のための本

著者 高橋哲哉 斉藤貴男 編著

『憲法が変わっても戦争にならない』
 と思っている人のための本

高橋哲哉・斉藤貴男編著
 日本評論社

憲法は古くなったから、新しくしたほうがいいんじゃないですか？ テロの危険などもあるし、きちんと防衛できるようにしておいたほうがいいのでは？

——多くの人がもついろいろな疑問に、さまざまな立場の人がわかりやすく答えていて、どうして憲法が変えられようとしているか、変えるかどうかとなるかがとてもよくわかる本です。